



いわての林業人 23

はじめに

普及班では、二月に首都圏で行われた、原木シイタケ生産参入者向けの流通研修に同行しましたので、その様子をご紹介します。

研修と受講者について

今回の研修は、遠野農林振興センターで実施している担い手育成事業の一環として行われ、遠野市宮守町から水越正宏さん、菊池秀明さん（2009年8月号で紹介）が参加



お店で商品を確認

しました。お二人とも、祖父や父が原木シイタケ生産者ですが、最近、本格的に生産へ取り組むようになり、ハウスを用いた仮伏せや、地元の原木林の活用などにより、地域のシイタケ生産の担い手として期待されています。また、今後の経営を安定化させるために、販売先の多様化や、直販に向けた加工、季節毎のニーズに合わせた商品作りなどについて、興味を持っていろいろです。

実施内容と感想

研修先は、加工販売業者と販売店舗です。このうち加工販売業者では、「株式会社三幸」（埼玉原上尾市）にお伺いしました。同社では、年間



商品展開について話し合う

100トン以上の国産乾シイタケを扱っているようですが、岩手県産品についても「肉厚で、物がしっかりしている」との評価で、どんこ系を中心に多数、お買い上げいただいています。当日は、原料選別、検査、包装、出荷といった、一連の工程を見学させていただきました。見学を終えた菊池さんと水越さんは、「想像していた以上に、原料や製品を厳しく選別、検査していた」「色々なノウハウが蓄積されている」などと、先進的な商品管理体制に驚いていました。

店舗では、「麦わら帽子」（東京都武蔵野市）を訪れました。武蔵野市は遠野市と友好都市関係にあり、同



盛岡周辺地域の生産者とも交流

店はアンテナショップとして遠野市の産物を販売しています。先日行われた遠野フェアで、菊池さんの乾シイタケを販売したところ、30分足らずで60袋を完売したそうで、担当の方によると、「品質が良く大好評で、まとめ買いする常連さんも多かったです。今後も出荷を続けて欲しい」とのことでした。お話を聞いた菊池さんは、自分の製品に対する自信を深めるとともに、今後の商品展開について担当の方と検討するなど、手応えを感じているようでした。また、乾シイタケを地元の産直施設で販売している水越さんは、価格設定の難しさ、面白さを改めて感じています。さらに、立ち寄った大手量販店では、岩手県産の原木生シイタケが良い値段で販売されており、原木生シイタケの優位性についても関心を持ったようでした。

おわりに

各所での担当者さんとのやり取りなどから、お二人の意気込みを感じました。今後も栽培、経営の両面での活躍を期待しています。

林業技術センター普及班

019(698)1337